



ほ

ほめられた うれしい気持ち が 次への一歩



タイトルに「ほめて育てる」が入っている育児書をたくさん見かけます。いつも怒られているより、ほめられている方が絶対いいですよ。でも、大切なのは、どんなときにほめるのか、ほめられるのかです。

離乳食を食べているとき、自分で食べたい食材に手を出してつかみ、自分で口に運んで、周りをぐちゃぐちゃにしてみました。それでも、「自分でしっかり食べられたね」とほめてもらったら、嬉しくなります。

でも、離乳食で周りを汚されるのが嫌な場合、いろんな食材をブレンダーで潰して、赤ちゃんに口を開けるように言って、開けた口にスプーンを入れ、食べさせ

たとしたら、赤ちゃんは親の持つスプーンにも手を伸ばせない中、黙々と食べることになります。そんな食事の後で「しっかり食べたわね」とほめられたとしても、赤ちゃんは嬉しいでしょうか。

ほめるのも、ほめられるのも、みんな大好きですが、何をほめるのかという、大人側の軸が大事です。全ての子どもが生まれてきて、今ここにいるという、存在自体をほめてもらっていると受け止めることが出来るのなら、こんな幸せなこととは他にないでしょう。